

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	一般社団法人パペットナビゲート	
施 設 名	人形劇場とらまる座	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内 定 額 (総 額)	10,365	(千円)
	公 演 事 業	10,365 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	定期人形劇公演事業1 (招聘プロ劇団公演)	2021年5月2日 ~2022年3月27日	上演：国内プロ人形劇団18劇団 上演約60分の人形劇プログラム 期間中 計65公演実施	目標値	7,455
		とらまる座ホール		実績値	3,408 ※
2	定期人形劇公演事業2 (委託プロ劇団公演)	2021年4月10日 ~2022年3月19日	上演：とらまる人形劇団 上演約60分の人形劇プログラム 期間中 計40公演実施	目標値	4,500
		とらまる座ホール		実績値	1,423 ※
3	特別人形劇公演事業1 (国際人形劇連盟UNIMA日本センター総会企画公演)	2021年8月21・22日 ※	上演：UNIMA加盟3劇団 「モノとココロ」2公演 3劇団連続公演プログラム	目標値	200
		とらまる座ホール		実績値	54 ※
4	特別人形劇公演事業2 (海外劇団作品公演A：チェコの人形劇公演)	2021年8月21・22日 (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により海外劇団の来日が不可能となったため中止	目標値	290
		とらまる座ホール		実績値	0
5	特別人形劇公演事業3 (ハイアート・大型人形劇公演)	2021年9月11・12日	上演：人形劇団ひとみ座 「人形劇 9月0日大冒険」 2公演	目標値	200
		とらまる座ホール		実績値	95 ※
6	特別人形劇公演事業4 (海外劇団作品公演B：アイスランドの人形劇公演)	2022年1月15・16日 (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により海外劇団の来日が不可能となったため中止	目標値	200
		とらまる座ホール		実績値	0
7	特別人形劇公演事業5 (低年齢乳幼児対象公演)	①2021年9月25・26日 ②2021年11月27・28日	①人形劇だん大福 「ウキウキ人形劇」 ②人形劇団クラルテ「COUCOU」	目標値	80
		とらまる座ホール		実績値	60

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>●人形劇場とらまる座のミッション</p> <p>○人形劇文化の芸術的価値の啓蒙および社会的認知の向上 ○文化的社会包摂の実現</p> <p>○人々の「生きる力＝想像力・創造力・コミュニケーション力」の育成</p> <p>○地域芸術文化振興の拠点 ○地域特有文化の発信拠点</p> <p>【公演事業】</p> <p>当館のミッションにもとづき、子ども～大人まで多世代で鑑賞できる定期公演プログラムを中心に、芸術性の高い特別公演プログラム、低年齢乳幼児を対象としたプログラムなど、幅広いバリエーションで公演企画を計画し、当年度は、定期公演事業および特別公演事業において、計 25 劇団による計 113 公演を実施し、来場者数は計 5,040 人であった。</p> <p>【自己評価】</p> <p>前年より続く新型コロナウイルス禍は当年においても影響は大きく、芸術文化活動が多大な制限を受ける中、集客面では当初目標を大きく下回る結果となっている。しかしながら、年間 110 回を超える劇場公演を実施し、人口 3 万に満たない地方片田舎の自治体において 5000 人を超える来場者があったことは、ミッションの実現および芸術文化活動の再興に寄与する大きな意義があったものと捉えている。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>人形劇場とらまる座では、人形劇の専門家でありながら医療分野に精通する経歴ももつ館長の指導のもと、感染症対策と芸術文化がもたらす社会幸福の意義を両輪として、コロナ禍渦中の前 2020～当 2021 年度においても、当初計画の事業構成要素をほとんど欠くことなく実施してきている。これは、適切な感染対策の実施と共に各事業を実施してきた運営側の理念と実務力、来訪者・参加者および地域住民の理解と支援があつてのことであると捉えている。また、「コロナ禍の中でも、小さな子どもと親子で楽しめるイベントがあつてとても良かった。日々の疲れが少し癒された。」という来場者の声は、普遍的な魅力を持った人形劇（劇場空間）が、コロナ禍での『息づまり・行きづまり』の世の中で、不安や抑圧を抱えた生活の癒し～生きる活力の糧となる意義の大きさを示している。</p> <p>人形劇場とらまる座は、人形劇～子どもの舞台芸術文化の創造・発信拠点として、また、都市部に比しての芸術文化格差が否めない地方地域：東かがわ市～中国四国地方において、日常的に本格的な舞台芸術に触れられる重要な存在となっている。劇場空間と舞台鑑賞機会の意義＝「多種多様な人々が同じ体験を共有する場」という意義が社会包摂の実現に向けても重要視されている中、世代や人種を選ばない魅力をもつ「人形劇の劇場空間」は、コロナ禍において大きく損なわれた「人のつながり＝社会幸福の本質」を回復し、健全な人の営みを取り戻すためにもその意義を増していると考えられる。舞台芸術鑑賞機会に乏しい地方地域において、人形劇機関・劇団と太いパイプを持ち、優れた企画の実施力を備えた地域特有劇場である当劇場では、元来、予算規模の小さい地方小劇場でありながらも各種助成金の活用により内容を充実させた企画を実施している。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

とらまる座のミッション実現に資する当年度目標と実施実績は以下の通り

【公演事業】

●令和3年度 主催公演および観客数

定期人形劇公演（招聘プロ+委託プロ）=105公演・4831人

特別人形劇公演（国際連携・大型・乳幼児）=10公演・359人 *中核助成対象外の2公演を含む

地域貢献公演（アマチュア、カーニバル）=7公演・815人

★主催公演実施回数=計122回 主催公演入館者数=計6,005人

●設定目標/目標達成状況

①人形劇場とらまる座の主催公演入館者数 11,000人以上。

（実績）6,005人/（目標値）11,000人 = 目標達成率=54.6%

②定期人形劇公演として、プロ劇団による幼児～大人まで全年齢対象型の人形劇公演を年間110回以上実施。

（実績）105回/（目標値）110回 = 目標達成率=95.5%

③特別人形劇公演として、海外劇団公演・ハイアート・大人向け・大型人形劇など高度な芸術性をともなう人形劇公演を年間5企画8公演以上実施。

（実績）8回/（目標値）8回 = 目標達成率=100% *中核助成対象事業のみ

④地域における芸術文化施設利用の促進を図り、東かがわ市民の当施設会員入会を積極的に誘致し、新規入会者170人獲得。

（実績）98人/（目標値）175人 = 目標達成率=56%

●設定指標/指標達成状況

①令和3年度において、主催公演の充実により主催公演観客数を令和元年度比で20%増加する。

（設定指標） 令元年10,393人→令3年12,500人(20%増) （実績）6,005人(57.8%減) 達成率=マイナス

②令和3年度において、定期プロ劇団公演の公演数を令和元年度比で20%増加する。

（設定指標） 令元年96回→令3年116回(20%増) （実績）105回(9.3%増) 達成率=46.5%

③令和3年度において、特別人形劇公演の公演数(助成事業外公演含む)を令和元年度比で12.5%増加する。

（設定指標） 令元年16回→令3年18回(12.5%増) （実績）10回(38%減) 達成率=マイナス

④令和3年度において、とらまるパペットランド会員新規入会者数を令和元年度比で9.7%増加する。

（設定指標） 令元年155人→令3年170人(9.7%増) （実績）98人(47%減) 達成率=マイナス

【総括】

前年より続く新型コロナウイルス禍の影響が大きく、目標設定時には想定していなかった入場者数制限もあり、前年度よりいくぶん回復傾向にはあるものの令和3年度における入館者数は例年の約半数であった。公演数については、やむを得ない公演中止もあり目標には僅かに届かなかったものの、コロナ禍において全年齢対象型のプロ劇団公演を年間100公演以上実施したことは、地域・国内の芸術文化振興に大きく貢献したといえる。特別人形劇公演については、コロナ禍の影響から中止・変更を生じた企画もあったが、目標通りに実施した。前年に続き、余暇活動の自粛を強いられるコロナ禍においては、新規会員の獲得は困難であった。

実数による目標は比較的高い達成率であるが、令和元年度実績からの増加率を指標とした場合、実数が令和元年度実績に満たなければ達成率がマイナスに転じてしまう。有益なデータとなりえにくいいため、目標に対する指標としてはよりの確な設定が必要である。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

①定期公演事業

当初計画 2021年4月～2022年3月 計22劇団・116公演
実績 2021年4月～2022年3月 計19劇団・105公演

②特別公演事業

1 国際機関連携公演	当初計画	2021年5月・1公演、6月・1公演
	実績	2021年8月・2公演
2 海外劇団公演	当初計画	2021年8月・2公演、11月・2公演、1月2公演
	実績	公演中止
3 大型作品公演	当初計画	2021年9月・2公演
	実績	2021年9月・2公演
4 低年齢乳幼児対象公演	当初計画	2021年6月・2公演、11月2公演
	実績	2021年9月・2公演、11月2公演

【総括】

定期公演事業については、新型コロナウイルス感染状況が悪化した5月中旬には中止した公演もあったが、年間を通して概ね計画通りに公演を実施した。特別公演についてはコロナ禍の影響から来日不可能となった海外劇団公演は中止となった。その他の特別公演企画は、一部公演時期を延期したものもあるが基本的に計画通り実施した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

●総額

助成対象経費 予算額 25,958,000円 / 決算額 24,222,877円 / 変更額 1,735,123円 (6.7%減)

◎内訳

1. 定期人形劇公演事業1 (招聘プロ劇団公演)	…	変更額 3,509,079円 (37.2%増)
2. 定期人形劇公演事業2 (委託プロ劇団公演)	…	変更額 504,182円 (9.6%増)
3. 特別人形劇公演事業1 (日本UNIMA総会企画公演)	…	変更額 810,830円 (25.5%減)
4. 特別人形劇公演事業2 (海外劇団作品公演A)	…	変更額 3,359,000円 (100%減)
5. 特別人形劇公演事業3 (ハイアート・大型人形劇公演)	…	変更額 31,481円 (1.5%減)
6. 特別人形劇公演事業4 (海外劇団作品公演B)	…	変更額 2,002,000円 (100%減)
7. 特別人形劇公演事業5 (低年齢乳幼児対象公演)	…	変更額 454,927円 (70.8%増)

【総括】

本年の公演計画においてはコロナ禍の影響により企画4・5の海外劇団公演事業が中止となったが、3月には国内劇団での代替公演を企画1で2公演実施している。ここで、海外劇団公演事業が中止となって生じた予算を投入し、特別公演に当たる規模のプログラムを当該事業において計画・実施した。特別公演の代替公演プログラムは通常の企画1公演作品よりもグレードが高い(作品規模が大きい、出演者数が多い、上演料が高額)プログラムであるが、特別事業公演の中止により生じた余剰予算約350万円を加算することで実施が可能となった。また、企画7において経費の増額幅が大きいのは、舞台上に客席を設営してのスタイルとなったため舞台費(環境設営費)・スタッフ費が増額したことによるものであるが、元々予算規模の小さい事業企画であったため見だ目の増額幅が大きくなっている。

総額状況が示す通り全体としての事業費設定・執行状況は適切であったと言える。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

○施設概要

「東かがわ市とらまるパペットランド」は、日常的に(年間100回以上)プロ劇団の人形劇公演を開催する「人形劇場とらまる座」、国内唯一の人形劇の体験型博物館「とらまる人形劇ミュージアム」を有し、舞台芸術ジャンルにおいて、舞台作品鑑賞と実演体験を同時に楽しめる全国でも希少な複合施設であり、国内唯一の人形劇の複合施設(テーマパーク)である。

1992年の人形劇場とらまる座の設立から現在に至るまで、とらまるパペットランドの文化事業は人形劇～子どもの舞台芸術文化の創造・発信拠点として、東かがわ市～中四国地方・西日本広域における重要な存在となっている。また、施設運営のみにとどまらず、多岐にわたる地域貢献事業、アウトリーチ活動の取り組みは、高度な専門性を有する優れた文化施設運営・地域文化創生事業のモデルとして多方面から注目されている。

○運営特記事項

人形劇場とらまる座の運営は、文字通りの「人形劇専門劇場」としての運営に徹している。

自主事業企画人形劇公演を年間100回以上開催し、地域アマチュア劇団の活動支援関係以外の一般貸館事業はほとんど実施していない。「人形劇専門劇場としての主旨を明確に保持するため、とらまる座は人形劇以外の事業には使用しない」＝開設当初に掲げられたこの運営理念と、現館長を筆頭とする常在職員の高度な専門性が、田舎町小劇場の「国内屈指の事業・運営実績を誇る人形劇専門劇場」としての現在を支えている。

○人形劇公演事業について

当事業は、年間100回以上という回数に加え、地域やその劇場限定的な劇団の公演ではなく、全国各地のプロ劇団の人形劇公演を、年間を通じて定期的に開催している。ただ種類が多ければよいということではなく、自らも人形劇の専門性と創造者としての技能を持つ芸術監督により、劇団としての創造性や作品の質が吟味された上で、さまざまな劇団の作品を種類豊富に提供することは、人形劇文化の奥深さを啓蒙する上で有意義なものであり、プログラムのバリエーションを多く持つことは、リピーター集客戦略としても有効なものである。

また、各劇団の公演時には基本的に芸術監督による批評対話を実施されている。当館芸術監督の劇評は芸術創造者である劇団からも定評があり、とらまる座での上演および作品評価は劇団にとっても創造性刺激の機会とある種のステータスとなっている。

○当年の事業実績と社会的意義

コロナ禍渦中の前2020～当2021年度においても、人形劇場とらまる座(東かがわ市とらまるパペットランド)では、施設運営その他事業活動を当初計画からほとんど欠くことなく実施している。芸術文化の危機は社会の『心』の危機である。「人のアナログの力が結集した総合芸術」「多元的多様性を包含し、人間自身や人間社会を取り巻く世界の魅力を伝える舞台芸術」という人形劇の社会的意義と、とらまる座の持つ人形劇文化の拠点および地域芸術文化の拠点としての存在意義から、「コロナ禍だからこそ、人形劇を、とらまる座の事業を絶やしてはならない」という信念に基づき、公演事業および種々の活動事業を実施してきた。

様々な芸術文化活動がその機会を奪われ、世の中の活力全体が低迷するコロナ禍において、世代・人種を選ばない魅力を持った人形劇公演および関連事業の実施は、地域社会に健全な人の営みを取り戻し、地域の芸術文化振興はもとより、国内の人形劇～芸術文化活動の啓蒙・再興、社会幸福の回復にも大きく貢献しうるものである。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

○地域での創造性波及効果

人形劇は、演劇・美術・造形・物語創作・音楽・空間演出等 多要素が集合した総合芸術である。とらまる座では、子どもから大人まで楽しめる人形劇プログラムに加え、高度・斬新な演出・美術様式・社会的テーマ・ハイレベルの演技といった優れた芸術性で構成された特別公演プログラムも実施している。当年は、当初計画であった海外劇団公演事業がコロナ禍の影響により中止となったが、その余剰予算を活用し、特別公演規模の人形劇プログラムを定期公演事業において代替企画として実施した。多種多様な人形劇プログラムの定期的・日常的な公演開催は、地域内外のアマチュア劇団においても創造性刺激・研鑽の機会となっている。

当地：東かがわ市では、2020 年度後期より、地域外人員を主体に構成された「東かがわ市わくわく課(非行政団体)」による地域の魅力創生・発信事業が進められており、中でも、人形劇を核とした『パペットカルテットプロジェクト』企画および『バレエと人形劇のコラボレーション創作』企画が、2022 年 9 月にとらまる座が 30 周年を迎えること、2023 年に東かがわ市政 20 周年を迎えることに焦点をあてての主要事業として取り組まれている。

○運営団体の創造性

多彩な劇団の公演プログラムの企画・実施は、自らが人形劇創作および上演を担う当運営団体・スタッフにおいても、創作における構成や美術の構想、人形操演などの創造性刺激に有用なものである。また、大型人形劇の公演では、上演団に付随する外部の舞台スタッフとの協働作業や交流もまた、当スタッフの舞台技術レベルの向上につながっている。企画の面では、2015 年度の事業から海外劇団公演企画を実施するにあたっての関連機関とのパイプが構築され、また、助成金の活用・機材の整備など、海外劇団企画を毎年の恒例企画とするノウハウを積み上げてきた。前年から当年にかけて「国際舞台芸術機関連携企画公演」として、ASSITEJ（国際児童青少年舞台芸術協会）や日本UNIMA（国際人形劇連盟ウニマ 日本センター）事務局との企画連携体制を構築し、2022 年の特別周年事業の足掛かりができています。

また、国内人形劇界の主要機関である「全国専門人形劇団協議会」の事業企画においても当館の存在および企画力は重要な位置づけに認識されており、さまざまな企画連携が当運営団体の企画運営力の向上にもつながっている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

2012年(平成24年)「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」・2017年(平成29年)「文化芸術基本法」が制定され、地域の文化施設は主体的な芸術文化事業の意義が重要視されるようになった。また、近年では「社会包摂～あらゆる分け隔てのない健全な社会の構築～」の意義も高まっている。人形劇場とらまる座は、人形劇専門劇場として国内屈指の公演実績・活動事業実績を持ち、また、人形劇は、最も普遍的かつ多元的多様性を包含した芸術文化である。

一般社団法人パペットナビゲートは、2013年度に人形劇場とらまる座(を含む「東かがわ市とらまるパペットランド」)の指定管理者となって以降、国の文化政策の推移とともに、まさに「時代の後押し」を受けて、その事業実績を着実に向上させてきている。とらまる座では、2015年度の事業から関連国際機関との連携が密となり、また毎年海外公演事業を実施してきた過程で主催劇場としての体制・ノウハウを構築してきた。また、とらまる座の持つ優れた企画力・現場対応力は、国内の人形劇を含む芸術創造団体や国際企画中枢機関からの信頼も厚い。企画内容の向上とともに広報戦略も向上させ、特別公演実施時には、東かがわ市～香川県内はもとより、高度な人形劇プログラムの鑑賞機会に乏しい中四国・西日本広域から多くの鑑賞ファンが訪れるようになった。2016～2018年の海外劇団公演事業では、いずれも企画主催者の見込みを上回る集客があり、今後の海外作品企画にも期待が寄せられている。

事業拡充とともに事業費も増大するのは当然であるが、とらまる座の存在と事業意義は行政にも認められており、2018年度の指定管理更新時には指定管理料7.3%増額(3261万→3500万)となった。また2020年度は指定期間途中でありながらも6.3%増額(3500万→3721万)となっている(*管理運営・指定事業に対しての委託料設定がそもそも低すぎたともいえるが…)。また、事業費の拡大に応じて各種助成金獲得額も年々増額している。これは地域自治体のみならず、芸術文化中枢機関にも広く当館の事業意義が認められていることを示している。

人形劇場とらまる座は次令和3年度：2022年9月に30周年を迎える。また隣接付帯施設であるとらまる人形劇ミュージアムの20周年(2023年3月)、当法人10周年(2022年10月)を迎える特別周年期であり、2023年度には、「東かがわ市政20周年」＝「東かがわ市とらまるパペットランド設立20周年」を迎える。現在、「2021年～2023年3カ年特別プロジェクト」を発足し、様々な発展的事業プランが構想・遂行されている。…一方で、この新型コロナウイルス禍が芸術文化活動・社会の営みに未曾有の危機的状況を生み出してしまっている。しかしながら、当館は、国内随一の人形劇場として、また、地域随一の劇場運営を目指して優れた舞台芸術作品を提供するとともに、これまでの事業に加え、人形劇文化と地域文化の発展につながるべく、事業展開(自主創作公演、高齢者対象の人形劇事業、世代間交流事業、劇場設備バックツアー企画、創造団体連携のプロデュース公演企画など)を見据え、地域行政および関連機関・地元住民団体との連携を深め、地域文化創造の中核劇場としての役割を果たし、コロナ禍により大きく損なわれた芸術文化活動の再興と、健全な社会幸福の復旧に尽力する所存である。